

江崎知事 × 古川中学校
若者未来デザイン会議 開催概要



(知事、教育長と古川中学校の皆さん)

1. 日 時

令和8年9月14日(月) 14:00～15:30

2. 場 所

飛騨市立古川中学校

3. 参加者

古川中学校生徒 7名

知事、県教育長、知事公室長、環境エネルギー生活部長、総合企画部地域振興課長

4. タイトル

「故郷（ふるさと）の明日を築く」 ～ つながりで創る 安心安全なまち ～

5. 知事への提案及び意見交換の概要

○学校紹介

【生徒会の活動】

古川中学校前期生徒会執行部では、「生徒一人ひとりが自分らしさを発揮できる学校」を目指し、「安心の輪を広げる」をスローガンに掲げて活動している。学校の伝統である「掃除・合唱・挨拶・学習」の4本柱を大切にしながら、縦割り掃除による異学年交流や、合唱祭に向けた日常的な練習、全校参加型の挨拶活動「挨拶ロード」、互いの反応や交流を大切にした学習活動に取り組んでいる。こうした活動を通じて、生徒同士の思いやりやつながりを深め、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めている。

【マイプロジェクトの紹介】

3年生では、「地域貢献」をテーマにマイプロジェクトに取り組んでいる。行政や地域イベントへの参加、地域課題の解決に向けた活動、小学生や園児向け体験プログラムの企画運営などを行っている。例えば、卓球クラブの紹介動画を作成し、小学生に発信することでスポーツを通じた健康づくりを広げる取組を紹介している。現在、30を超えるグループが地域の人に喜んでもらうことを目標に活動している。



2年生では、「職業」をテーマにマイプロジェクトを進めている。経済カードゲームや職業適性検査、地域企業44社が参加する職業展を通じて、働くことの意義や地域で働く人々の思いについて学んでいる。今後の職場体験でさらに学びを深め、自分に合った職業や将来像を考えながら、3年生での地域貢献活動につなげていきたい。



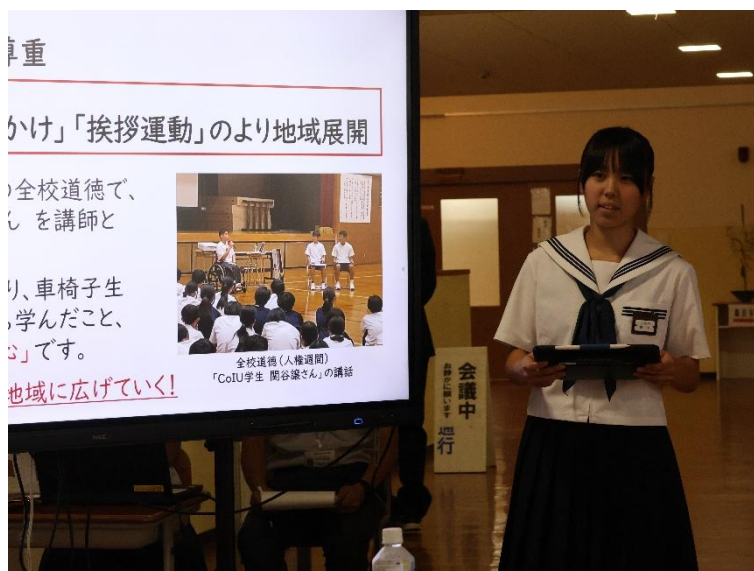
1年生では、「防災から地域貢献」をテーマに活動している。防災士や地域の方から話を聞くほか、消防士講話や避難所設営訓練、災害シミュレーションゲームなどを通じ、防災の大切さや地域で支え合うことの重要性を学んでいる。今後はSNSを活用して同世代に防災の知識を発信し、防災意識の向上や地域とのつながりづくりに取り組んでいく。



○提案概要

①「人権・価値観の尊重」

あったかい言葉かけと挨拶運動を地域へ広げることを提案する。



【あったかい言葉かけについて】

古川中学校では、人権について深く考える取組を行っている。全校道徳で学んだ「違いを認め合うことで、一人ひとりが自分らしく生きられる」という考えから、相手を思いやる気持ちは心の中で思うだけでなく、言葉にして伝えることが大切だと感じている。

学校では、友達の良いところや思いやりのある行動を見つけて共有する「よさ見つけ」の活動に取り組んでいる。この活動を通じて、仲間の良さを改めて知ることができるほか、自分では気付かなかった自分の良さを知ることにもつながっている。また、「ありがとう」や「助かりました」といった温かい言葉は、言われた人だけでなく、伝える人も温かい気持ちにすることができる。

こうした活動を学校の中だけで終わらせるのではなく、地域全体に広げていきたい。地域の人との関わりの中で感じたうれしかったことや感謝の気持ちを回覧板や公民館の掲示板などで共有することで、学校だけでなく地域全体が温かくなり、一人ひとりが相手の良さを認め合える地域づくりにつながると考えている。

【挨拶運動について】

挨拶運動では、朝の活動として「ハイタッチ挨拶ロード」に取り組んでいる。ハイタッチをしながら挨拶をすることで学校全体が明るくなり、普段は恥ずかしくて挨拶ができない人でも自然に気持ちを伝えられると感じている。小さな行動ではあるが、人と人との心をつなぐ力がある取組である。

一方で、異性や先輩後輩、普段あまり関わりのない人との間ではハイタッチがしにくく、心理的な壁があることを課題としている。そのため、学年を超えた交流活動を増やし、顔や名前を知り合う機会を増やすことで、誰もが話しやすく、関わりやすい環境をつくっていききたいと考えている。

また、こうした課題は古川中学校だけではなく、他の学校にも共通するものではないかと考える。ハイタッチ挨拶ロードを県内の小・中・高校や地域へ広げることで、学校や世代を超えたつながりを生み、より多くの人の笑顔であふれる岐阜県にしていきたい。

②いのちを守る

中学生と地域との熟議の実施や、中学生による情報発信・啓発活動を通じて、いのちを守る取組を提案する。



【SNSの利用について】

1人1台タブレットを活用した授業や行事を通じて、学びがより充実したものになっている。タブレットやスマートフォンを使うことで、新しい発見をしたり、学んだことをさらに深めたりすることができるほか、必要な情報を得ることで自分自身の成長にもつながっている。

一方で、SNSは便利である反面、誹謗中傷や人権侵害につながる危険性もある。SNS上でのいじめに関するニュースも多く、古川中学校でもSNSによるトラブルが実際に起きている。こうした問題は、中学生だけでなく大人にも関わる課題であり、時には命に関わる深刻な問題へ発展することもある。だからこそ、便利さだけでなく危険性についても理解し、自分や周りの人を傷つけない正しい使い方をしていく必要があると考えている。

古川中学校では、全校集会や人権週間を通じて人権について考える機会を設けているが、学校だけでなく地域でも、大人と子どもが一緒になってSNSや人権について考え、自分事として向き合う機会を増やしていきたい。

【交通安全について】

交通安全については、警察から自転車の乗り方やヘルメット着用の大切さ、交通ルールについて学んだことで、自転車利用のルールを見直すきっかけとなり、ヘルメットを着用する人も増えている。

しかし、まだ全員がルールを守れているわけではなく、休日になるとヘルメットを着用していない人を見かけることもある。髪型が崩れることや見た目が気になること、恥ずかしさなどが理由としてあるが、自分自身もその気持ちは理解できる。一方で、ヘルメットを着用しないことは自分の命だけでなく、自分を大切に思ってくれている家族や周りの人を悲しませることにもつながる。一人ひとりが交通安全への意識を高め、命を守る行動を取ることが大切だと考えている。

中学生や地域の人々の交通安全意識を高めるため、交通安全標語を活用した啓発活動を提案する。飛騨市では、交通安全標語を郵便局の車両などに掲示する取組が行われており、多くの人々の目に触れることで地域全体の交通安全意識向上につながっている。このような取組を岐阜県全体へ広げることで、中学生だけでなく地域全体で命を守る意識を高めていきたい。

【まとめ】

SNSの利用も交通安全も、一人ひとりの意識と行動が大切である。ルールを守れることは自分の命を守るだけでなく、家族や友達など大切な人の命を守ることにともなう。自分の命を大切にしながら、周りの人のことも考えて行動できる、安全で安心な学校や地域をつくっていきたい。

③シビックプライドの醸成

マイプロジェクトやヒダスケなどの取組を広く発信し、地域交流の促進や関係人口の増加につなげることを提案する。



【マイプロジェクトを通じた地域貢献について】

私たちが取り組んでいるマイプロジェクトでは、「パワーマイプロ」で地域ボランティアの活動を手伝ったり、「保育園マイプロ」で小さな子どもたちと関わったりするなど、幅広い年代や様々な分野で地域貢献に取り組んでいる。

その中でも、地域の多様な人たちとの交流が大きな学びになっている。飛騨の大イ

ベントである「瀬戸川の鯉の引っ越し」では、ヒダスケを通じて東京や長崎など全国各地から集まった人たちと一緒に活動する機会があり、多くの交流が生まれている。また、古川まつりやきつね火まつりでも、地域内外の人との協働や交流が行われている。

【地域文化の継承について】

古川に昔から伝わる盆踊りは、少子高齢化や人口減少の影響で受け継ぐことが難しくなっていた。そこで、古川中学校生徒として盆踊りの復活に少しでも力になりたいと考え、「盆踊りマイプロ」として古川町民謡保存会の方々から踊りを学び、「白壁キャンドルナイト」で披露した。中学生が手本となって踊ることで、多くの人が盆踊りの輪に加わり、地域全体で盛り上がる事ができた。

また、「白壁キャンドルナイト」では、「ボランティアマイプロ」として会場準備や運営、片付けなどにも参加し、イベントを支えている。こうした活動を通じて、地域の文化や伝統を次の世代へつないでいきたいと考えている。

【地域交流の促進と関係人口の増加について】

マイプロジェクトを通じて地域に貢献し、地域の人から感謝の言葉をもらえることは、大きなやりがいになっている。また、古川まつりをはじめとする地域のイベントは地域を元気にする大切なものであり、これからも続いていってほしいと思っている。

一方で、古川町では少子高齢化が進み、祭りやイベントを続けていくことが難しくなっている。こうした課題は県内の多くの地域にも共通しているため、地域を思う中学生が地域活動に参加し、地域を支える力になっていることをもっと多くの人に知ってほしいと考えている。

また、マイプロジェクトやヒダスケのような取組を参考に、地域貢献活動に取り組む地域が増えることで、地域交流が活発になり、地域を支える人も増えていくと思う。さらに、中学生が地域との関わりを深めることで、自分の生まれ育った地域をより好きになり、将来も地域に関わり続けたいと思う人が増えていくのではないかと考えている。



○意見交換概要

【知事のコメント】

皆さんの話を聞いていて、一番すごいと思ったのは、地域や社会の一員としての自覚をしっかり持っていることだと思う。「自分たちはまだ子どもだから」という考えではなく、「自分たちがこの地域を何とかしなければいけない」という思いで活動していることにとても感動した。中学生だから、小学生だからということではなく、本当に社会の一員として地域のことを考え、行動していると感じている。

私は皆さんと同じような田舎で育ったが、小学生の頃は地域の中で遊び、中学生になると行動範囲も広がり、自然と地域や社会の中で役割を持つようになった記憶がある。今日の皆さんの発表を聞きながら、そのことを思い出した。

改めて、中学生はもう立派な社会の一員であり、地域を支える存在だと感じている。皆さんが地域のことを真剣に考え、自分たちで行動しようとしている姿を大変頼もしく思う。



【教育長のコメント】

今日の発表を聞き、1年生から3年生まで、それぞれが自分のこととして地域の課題や将来について考え、飛騨市をより良くしたいという思いを持っていることに大変感心した。また、知事を前にしても堂々と発表する姿に大変感銘を受けた。

発表では準備してきた内容をしっかり伝えてもらったが、この後の意見交換では、皆さんが普段感じていることや困っていること、こうしてほしいと思うこと、さらには飛騨市の良いところなども率直に話してほしい。知事との対話を通じて、皆さんの本音や思いをぜひ聞かせてもらいたい。

①人権・価値観の尊重について

【知事の質問】

それでは一つずつ質問したい。私自身もどうしたらよいのか分からない部分があるので、意見交換をしながら一緒に考えていければと思う。温かい言葉かけや挨拶について話があったが、異性や知らない人との間ではなかなかやりにくい部分もあると思う。そもそも、皆さんはなぜこのような取組が必要だと考えているのか聞かせてほしい。

【生徒の回答】

学校内の知らない人や異性と関わることで、お互い尊重できたり、相手の人権を守ることが出来ると思うため、もっと関わりを深くしていけば、いじめをなくすことに繋がると考

えている。

【知事の質問】

こういう取組を進めようとする、「そんなことはやりたくない」と思う人や反対する人が必ずいると思う。しかし、全員を説得する必要はなく、なぜその活動が大切なのかという思いをしっかりと伝えることが大事ではないか。

ハイタッチも、習慣になるまでは難しいと思うが、「思い」は見えなくても、「思いやり」は行動にすることで相手に伝わる。困っている人をかわいそうだと思うだけでは伝わらないが、「大丈夫ですか」と声をかけたり手を差し伸べたりすることで、初めて思いやりとして相手に伝わるのではないか。

また、誰かに見てもらえている、気にかけてもらえているという安心感はとても大切だと思う。実際に声をかけてもらうだけでも安心できるし、それは学校や地域の中でも同じことではないだろうか。

先輩後輩の間ではハイタッチが難しいという話があったが、そうした壁をなくしていくためにはどうしたらよいと思うか。また、先輩後輩のどちらが行動するとよいか皆さんの考えを聞かせてほしい

【生徒の回答】

ハイタッチは、学年が違ったり異性同士だったりすると、どうしてもやりにくいと感ずることがある。だから、いきなりハイタッチをするのではなく、まずは「おはよう」と声を掛けることから始めていけばよいと思う。そうやって少しずつ関わりを増やしていくことで、自然とハイタッチにもつながっていきけるのではないか。また、先輩から進んで行動できるようにしたい。

【知事の質問】

そうだと思う。後輩から先輩に声を掛けるのはなかなか勇気がいるので、まずは先輩から声を掛けてあげることが大事ではないか。先輩が笑顔で接してくれるだけでも後輩は安心できるし、関わりやすくなると思う。

ただ、その時には後輩も戸惑った顔をするのではなく、しっかり応えていくことが大切である。そうやって先輩後輩の間で少しずつ関わりを増やしていけば、自然とハイタッチもしやすくなるのではないか。

それでは、どうしたらもっとみんながハイタッチをしてくれるようになると思うか。皆さんの考えを聞かせてほしい。

【生徒の回答】

先輩から後輩に声を掛けたり挨拶をしたりすることはもちろん大切だと思う。また、学校には委員会活動など学年を超えて関わる機会もあるので、そうした縦の交流の中で先輩と後輩が普段から関わるようになれば、お互いのことを知ることができ、ハイタッチもしやすくなると思う。

【環境エネルギー生活部長のコメント】

先輩後輩という話があったが、自分は（県庁の）部長の中では1年生の立場である。学校では先輩が怖くて挨拶やハイタッチがしにくいという話があったが、自分自身はあまり

上下関係を気にしないようにしている。

社会に出ると、年上の部下がいたり、年下の上司がいたりすることもあり、年齢や立場だけを気にしては仕事ができなくなってしまうこともある。そのため、先輩であっても自分から向かっていくように心掛けている。

そうして自分から関わっていくことが、周りの雰囲気を変えることにもつながるのではないかと思う。



【知事のコメント】

環境エネルギー生活部長は、今とても大変な仕事を担当している。また、県庁の部長の中では一番顔が怖いと言われているが、それも一つの個性だと思う。

ただ、いつも怖そうに見える人が笑顔になると、心理的にはすごく効果がある。先輩後輩の関係でも同じで、後輩は先輩を少し怖い存在だと思っていることが多いと思うが、普段怖いと思っている先輩が笑顔で声を掛けてくれたり、にこっとしてくれたりするだけで、後輩は安心して話しやすくなると思う。

これは参考になるか分からないが、自分が国の経済産業省で課長をしていたときに、一つルールを決めていた。それは、「1日1回、誰かがくだらないことでもいいから話をすること」と「それに必ず誰かが反応すること」である。

人間関係を壊すのは悪口ではなく、むしろ無視することではないかと思う。だから、どんな内容でも相手が話をしたら何かしら反応することが大切である。良い返事をしなければいけないわけではなく、とりあえず反応してみることが大事だと考えている。

また、仕事の場ではどうしても仕事の話ばかりになりがちだが、普段から雑談をしたり、お互いの話に反応したりしていると、プライベートなことも話しやすくなる。そうすると、「今日は子どもが熱を出してしまった」「家で少し大変なことがあった」といった話も自然にできるようになり、お互いを気遣う雰囲気が生まれる。

「今日大丈夫か」と一声かけるだけでも人との関係は変わる。温かい言葉かけや挨拶も同じで、まずは相手の話に反応することや声をかけることが、人と人とのつながりをつくる第一歩になるのではないかと思う。ぜひ皆さんにも大切にしてほしい。

【教育長の質問】

「同調圧力」という言葉を聞いたことはあるか。こうした活動が好きな人もいれば、正直あまり好きではない人もいると思う。自分も中学生の頃は、みんなで盛り上がり取り組む活動が少し苦手だと感じることもあったし、周りにもそういう友達がいた。

皆さんはこうした活動を進める立場にいると思うが、友達の中には「ちょっと苦手だな」「やりたくないな」と感じる人もいるのではないかな。そのことをどう思っているのか聞いてみたい。

無理に挨拶をさせるとか、無理やり活動に参加させるということではなく、そうした人たちの気持ちを皆さんはどう受け止めているのか。その辺りについて、皆さんの考えを聞かせてほしい。



【生徒の回答】

- ・みんなで取り組みたいと思うので、自分から積極的に声をかけていきたい。
- ・人によって活動に対する熱量の違いを感じることはあるが、自分は頑張りたいと思っているので、一緒に取り組んでほしいと思う。
- ・お互いの意見を聞いて、その間に入って新しい意見をまとめることがあった。
- ・一人ひとりやる気は違うため、あまり積極的でない人もいる。しかし、「やれよ」と無理に言うのではなく、その人の意見も大切にしながら、「せっかくだから一緒にやってみようよ」と優しく声をかける。

【知事の質問】

知事として、県として「こうしたらいいのではないかな」と提案すると、必ず反対意見や誹謗中傷のような声が寄せられることがある。皆さんと同じような立場だと思うが、そういうときにどうしたらよいだろうか。

【生徒の回答】

知事がやると言っているならみんなやるのではないかな。

【知事のコメント】

生徒会長がやると言ったらやるかということと同じだと思う。何か新しいことを始めようとする、「やろう」と言う人もいれば反対する人もいる。私自身も学生の頃にクラブの主将をしていたときは、みんなが同じ気持ちになってから始めたいと思っていた。

しかし、そのときの先生から「100人いたら100人全員を説得しようと思うな」と言われたことがある。半分以上の人が「やろう」と言ってくれたら、まずやってみることが大事だと教わった。全員がまとまるのを待っていたら、結局何もできなくなってしまう。

まずはやってみて、その中で修正すべきことがあれば直していけばよいと思う。また、

活動している人たちが楽しそうに取り組んでいると、最初は反対していた人も少しずつ関心を持ってくれることがある。反対意見ばかりを気にするのではなく、自分たちが大切だと思うことを前向きに進めていくことが大事ではないか。

皆さんもこれから社会に出ると、全員が同じ考えということはない。その中で、自分たちが大切だと思うことがあるなら、まずはやってみることが大事だと思う。そして、本当に無理だという人がいれば、そのときにやり方を見直したり修正したりすればよいのではないか。まず行動してみることを大切にしてほしい。

②いのちを守るについて

【知事の質問】

次のテーマ（いのちを守る）も興味深いと感じているが、皆さんはスマホを持っているか。また、それはどんな理由で持っているか。

【生徒の回答】

- ・家族や友達と連絡を取るために利用している。
- ・自分で調べたいことがあるときにすぐに検索できるため、情報を集めたり学んだりするのに役立っている。
- ・ゲームやYouTube など、自分の好きなことを楽しむことができ、リフレッシュしたり楽しい気持ちになったりすることができる。

【知事のコメント】

もし明日から1か月スマホを触らないと言われたらどうだろうか。

私たちの世代は携帯電話を持っていないのが当たり前だったし、家族と連絡が取れなくて困ることはあっても、それで生活できなかったわけではなかった。

スマホには便利な面がある一方で、持つことによるリスクもある。その両方をしっかり考えることが大切だと思う。

私自身、子どもには高校を卒業するまでスマホを持たせなかった。すると、中学生の頃に「みんながスマホにたくさん時間を使っていることが分かった」と話していたし、高校生になっても「特に必要ない」と言っていた。

結果として、本を読んだり、折り紙など別のことに熱中したりする時間が増えた。だから、調べものができることは確かに大切だと思うが、調べるだけであればパソコンでもできる。スマホでなければならない理由は何だろうか。そういうことも含めて考えてみてほしい。

また、今、世界中で問題になっているのは、若い人たちがSNSにたくさんの時間を使っていることだと思う。それに、皆さんが提案してくれた温かい言葉かけとは逆で、顔が見えていると優しい言葉をかけられるのに、顔が見えなくなると誹謗中傷をしたり悪口を言ったりすることがある。人間は顔が見えないと、どうしてこんなことをしてしまうのだろうと思うこともある。

そう考えると、本当にそこまでSNSが必要だと思うか聞いてみたい。皆さんはSNSを便利に使えているだろうか。

【生徒の回答】

- ・自分はまだスマホを持っておらず、タブレットで調べものをすることはあるが、連絡を

取るためには使っていない。習い事などの連絡は親のスマホに届くため、自分だけ知らないことがあると感ずることもある。

また、今はスマホがあることが当たり前になっていて、多くの情報が飛び交っている。その中で、自分だけ情報が少ないと感ずることもあるが、スマホでしかできないことはあまりないのかもしれない。

- ・テスト期間などは自分でスマホを親に預けていたが、なくても問題なかった。
- ・サッカーの遠征のときに夜はみんなスマホを見てしまうので、3日間の遠征ではコーチにスマホを預けたことがある。そのときは仲間がいたので、トランプをしたり話をしたりして過ごすことができた。しかし、高校生になって寮生活をする予定なので、一人で過ごす時間が増えると思う。そうになると誰とも話せず、少し寂しく感ずるのではないかなと思う。また、スマホがないと勉強や読書ばかりになってしまい、飽きてしまうこともあるのではないかなと感ずている。

一方で、小説を読んで漢字を覚えたり、自分の趣味に時間を使ったりすることも大切だと感ずている。スマホの便利さを活用することも大事だが、それだけに頼らず、自分の好きなことや興味のあることを大切にすることも必要ではないかなと思う。

- ・スマホがなくても生活はできると思うが、例えば遠征に行ったときに自分だけスマホがなかったり、みんながスマホでゲームをしている中に入れなかったりすると、少し仲間外れのように感ずることもあるのではないかなと思う。一方で、テスト期間や大事なことがある前の日には自分からスマホを触らないようにしているので、1か月間スマホを使わないと言われても、なんとかできるのではないかなと思う。

【知事のコメント】

今、皆さんの話を聞きながら、どこかで本当にこういうことをやってみたいと思っている。最近は「デジタルデトックス」という言葉もあるが、今はどうしてもデジタル機器が生活の大半を占めているので、一度そこから離れてみるのも悪くない。

私自身、高校から下宿生活をしていて、テレビもなく、中学生の頃に買ったラジオだけで過ごしていた。今振り返ると、あの頃が人生の中で一番いろいろなことを考えていた時期だったように思う。

今はSNSや動画を見ていると、1時間や2時間があっという間に過ぎてしまう。しかし、その時間で本当に何を学んだのかと考えると、そうでもないこともあるのではないかな。だからといってスマホを持つなと言うつもりはないが、世界ではSNSの利用を制限する動きもある。しかし、禁止することが目的ではなく、自分たちでやってみたり、何が必要か考えることが大事ではないかな。中学生の皆さんは、そうしたことを考えるのにちょうど良い時期だと思う。

また、これからはAIがますます身近になる時代でもある。私たち大人も答えを持っているわけではない。禁止したとしても見る人は見るため、自分たちで善し悪しを吟味することができると良いと思う。

【教育長のコメント】

「1か月くらいなら（スマホを使えなくても）大丈夫かもしれない」という今の皆さんの反応は少し意外だった。

統計で「1日にスマホを何時間使うか」というデータがあるが、3時間や4時間使う人も少なくない。その時間があれば本も1冊読める。毎日少しずつ使っている時間やお金も、

まとめて考えてみると意外と大きいものになるので、一度比べてみることも大切ではないかと感じた。

また、一番大事なのは、先ほど知事も言っていたが、面と向かっては言えないことでも、SNSでは簡単に言えてしまうことだと思う。顔が見えないからこそ、何気なく書いた言葉が相手に強く伝わったり、傷つけたりすることもある。これは一番怖いこと。

今日、「いのちを守る」というテーマの中でSNSの話が出てきたことから、皆さんがこの問題をしっかり意識していることが伝わってきたし、とても大事なテーマだと思う。

【知事の質問】

先ほどスマホがないと仲間外れになるかもという発言があったが、スマホがない場合どうなると思うか。

【生徒の回答】

自分は、そんなことをされても平気だし、長い遠征になると先に寝るので、問題ない。先に寝るから試合で強いと感ずることもある。

【知事のコメント】

小さい頃は、「みんな持っているのに仲間外れになるよ」と言われることもあったが、子どもにはスマホは絶対には買わないと決めていた。最初は不満もあったようだが、「この家では買わない」ということが分かると、だんだん受け入れるようになった。

また、友達の家でゲームをすることはあっても、自分ではスマホを持たない生活を続けた。その結果、一緒に遊ぶ友達もサッカーをしたり別の遊びをしたりするようになった。

中学生になる頃には、本人もスマホを持たない良さが分かってきたようで、「持っていないことがかっこいい」と感ずることもあった。連絡の面では不便なこともあったが、それでも何とかやってくることができた。

だから、一度スマホから離れてみる経験をするのも面白いのではないと思う。答えがある話ではないが、今は世界的にも大きな課題になっているので、スマホやSNSとどう付き合っていくのがよいのか、自分たちなりに考えてみてほしい。

③シビックプライドの醸成について

【知事の質問】

盆踊りや白壁キャンドルナイトの話聞いて、このテーマも本当にすごいと思った。地域の行事や文化を自分たちの力で支えようとしている姿がよく伝わってきた。

一方で、伝統行事などについては、大人が「自分たちがやってきたことをそのまま引き継いでくれない」と考えてしまうから引き継いでくれないということもあるのではないか。

しかし、そのまま受け継ぐことだけが大切なのではなく、若い皆さんの考えで新しくしたり、自由に任せてもよいのではと思う。こういうところを変えたほうがいいんじゃないかと思うことはあるか。

【生徒の回答】

祭りそのものを変えたいというよりも、人口減少や少子高齢化によって続けることが難しくなっていることは、地域の人たちも分かっていると思う。イベントを続けていくためにはボランティアの協力が欠かせない一方で、地域の人たちがボランティアの方々任

せになってしまい、地域全体としての熱意が少しずつ弱くなっている部分もあるのではないかと感じている。

【知事の質問】

ボランティアがやってくれるからもういいじゃないかということか。それはどうしたらいいか。

【生徒の回答】

地域の人たちがやりたいと思わないのであれば、やめる選択肢もあると思うし、本当にやりたいなら、地域に住んでいる人たちから、どうしてもやりたいという気持ちが見られるといいと思う。

【知事の質問】

将来的な地域のリーダーになったとしたらどうしたいか。

【生徒の回答】

シンプルだが、人を集めたい。

【知事の質問】

そう思う。実はこれは祭りやイベントだけの話ではなくて、職業の世界でも同じことが起きている。

最近は「後継者がいない」という話をよく聞く。農業でも昔から「農家を継ぐ若者がいない」と言われているが、皆さんは農家を継ぎたいと思うだろうか。もし継ぎたいと思わないとしたら、それはなぜだろうか。

【生徒の回答】

お金が稼げないようなイメージがあるし、育てることに失敗したときにマイナスが大きいのではないかと思う。

【知事のコメント】

今この国で農家を継ぎたい人はほとんどいない。しかし、農業と同様に「後継者がいない」と言われている分野でも、やってみたいと思っている人はたくさんいる。ただ、「農業は大変だ」「儲からない」といったイメージばかりが広がると、やってみたいと思う人も少なくなってしまう。

本当は農業でも林業でも、やり方次第で可能性はいろいろあるし、最近は半農半Xなど別の仕事をしながら農業や林業に携わる人もいるし、実際にはすごく儲かっている方もいる。大変なことばかりを伝えるのではなく、楽しさや魅力を見せることが大切ではないかと思う。

祭りや伝統についても同じで、「昔からこうやってきたから同じようにやれ」ではなく、若い人たちが自由に考えて、新しいやり方を取り入れてもよいのではないか。地域の人だけでなく、地域の外にいる人でも「やってみたい」と思う人はたくさんいると思う。

実際に、地域の活動に参加したいと思っている人は全国にいるし、古川にはそうした人を呼び込める魅力や資源がたくさんあると感じている。今日話のあったヒダスケのような

取組も、その可能性を広げるものではないかと思う。

地域への愛着や誇りを育てていくためにも、地域の人だけで頑張るのではなく、地域の外の人たちとも一緒に地域を盛り上げていくことが大切ではないか。古川で行われている取組は、岐阜県内はもちろん、全国にも広げていける可能性があると思っている。

最近、政策オリンピックといって、提案を政策にするということをしている。

○その他

【知事の質問】

皆さんは、この地域をもっと良くするために、これからどんなことをやってみたいと思うだろうか。ヒダスケをさらに広げることでもよいし、新しい取組でもよいので、ぜひ皆さんの考えを聞かせてほしい。

【生徒の回答】

古川まつりについては、ボランティアの方々の協力だけでなく、日本全国や海外からも多くの人に参加してもらえ祭りにしていきたいと思う。古川まつりのように長い歴史を持つ伝統的な祭りを通じて、日本には昔から受け継がれてきた文化を大切にしている地域があることを、外国の人たちにも知ってもらいたい。

また、地域の人だけでなく世界中の人とつながることで、古川まつりをさらに魅力あるものにしていきたい。

【知事のコメント】

高山には多くの外国人観光客が訪れているが、今はまだ「お客さん」として来ている人が多いように感じる。本当は、一度来て終わりではなく、何度も訪れたり、地域の活動や祭りに参加したりするような関わり方ができるともっと面白いのではないかな。

高山には毎年たくさんの外国人が訪れているので、その人たちに飛騨地域をもっと好きになってもらい、また来たいと思ってもらうためにはどうしたらよいかを考えてみることも大切だと思う。

【生徒の質問】

知事は岐阜県をどうしていきたいか。

【知事の回答】

私は、岐阜県を人やモノが集まる地域にしたいと考えている。ただ、日本の中でも岐阜県ことはまだ十分に知られていない。飛騨高山には多くの外国人が訪れており、有名であるが、それが岐阜県にあることまで知られていないことも多い。人は知らない場所には行かないので、まずは岐阜県の魅力を知ってもらうことが大切だと思っている。

人口減少が課題と言われているが、住民票のある人だけが地域を支えるわけではない。様々な地域の人交流し、関わりを持つことができれば、地域はもっと元気になると思う。これからリニア中央新幹線が開通すれば、東京と岐阜の距離はさらに近くなり、都会と地方の両方で暮らしたり働いたりすることが当たり前になる時代が来ると考えている。

また、これからAIがますます発達する時代になるが、人間にしかできないことは何かを考えることも大切だと思う。知識だけではAIにかなわないかもしれないが、人との関わりや自然との触れ合いを通じて育まれる感性や思いやりは、人間にとって大切な力であ

る。その力は、子どもの頃にどれだけ自然や地域、人と関わったかによって育まれると言われている。

岐阜県には豊かな自然があり、多くの魅力があり、災害にも強く、交通の便もよい。だからこそ、岐阜県から様々な課題に挑戦し、新しい取組を発信していきたい。皆さんが岐阜県に生まれてよかったと思えるような地域を創っていきたいと思っている。

【生徒の質問】

知事は岐阜県の人たちを引っ張っていっていると思うが、どうしたら古川中学校のみんなを引っ張っていけるか。

【知事の回答】

まずは、皆さん自身が楽しそうに取り組むことが大事だと思う。リーダーが楽しそうであれば、周りの人もついてこない。農業の話と同じで、「大変だ」「つらい」と言っている仕事を、子どもたちがやりたいとは思わない。

生徒会活動も、「生徒会長って楽しい」「こんな学校になったらいいな」と言い続けることが大切だと思う。最初は「そんなことできるわけがない」と言われるかもしれないが、言い続けていると、実現に近づいていくこともある。

また、いきなり答えがあるわけではなく、答えのないことに答えを出していくのが皆さんの役割だと思う。そのときに大切なのは、相手を説得しようとするのではなく、納得してもらえそうな環境をつくることである。

そうしたことを意識しながら、これからも活動を続けてほしい。

○総括

【教育長のコメント】

このような会議に参加する際に、「感性」という言葉を使うが、改めてとても大切だと感じた。音楽や絵などの芸術に触れる取組を行っているが、物事を感じる力や感性を育んでほしいと思っているからである。そうした本物に触れる経験を通じて、感じることや考えることを大切にしてほしいと思っている。

また、もう一つ大切にしているのが「創造する力」である。ただ何かをつくり出すのではなく、自分のためではなく相手の立場に立って考えながら創り出していくことが大切だと思っている。今日の人権や挨拶の話を聞きながらも、まさにそのことを感じていた。

人は自分が満足したいと思って行動することもあるが、相手のことを考えて行動したことは、必ず自分にも返ってくると思う。

今日紹介のあったマイプロジェクトや古川中学校の取組には、相手の立場を考えながら地域や仲間のために行動する姿がたくさん見られた。これからも感性と創造する力を大切にしながら活動を続けてほしいし、そうすることで古川中学校がさらに良い学校になっていくと思う。

【知事のコメント】

今日皆さんが発表してくれた内容は、その通りだと思うし、これからぜひ幸せになってほしいと思っている。

人が幸せになるための一番確実で簡単な方法は、誰かを幸せにすることである。皆さんは、もうすでに地域のためや周りの人のために活動していて、そのことを実践できている

と思うが、周りの人が笑顔になったり幸せになったりすることで、結果として皆さんの幸せにもつながっていく。これからもその気持ちを大切にしながら頑張してほしい。